

報 む す び



第36号

平成24年4月吉日

● 発行所 ●
栃木県青年神職むすび会
広報委員会

● 発行人 ●
田中教文

● 印刷所 ●
伴印刷株式会社



震災による被災地の復興を祈念しながら自転車で神宮へ

目次

会長挨拶(第二十代会長).....	1
東日本大震災復興支援 いわき市久ノ浜瓦礫撤去作業	
神青協一都七県協議会による支援活動.....	2
むすび会による支援活動.....	3
東日本大震災復興祈願祭・慰霊の集い.....	4
創立五十周年記念事業	
神主が自転車で行く伊勢参り.....	5
夏休み子供神社体験.....	6
雅楽コンサート.....	7
御田植祭・抜穂祭.....	8
フットサル大会.....	8
平成二十三年むすび会事業報告.....	9
平成二十三年むすび会役員・幹事氏名.....	10
新入会員、退会者紹介.....	11
祝・御結婚、第一子誕生、むすび会広告.....	12
協賛社広告掲載.....	13
編集後記.....	16
むすび会広告	
表紙写真／創立五十周年記念事業	
「雅楽コンサート」	



ご挨拶

栃木県青年神職むすび会
二十代会長 田中 教文

去る三月十一日に発生しました東日本大震災から、早くも一年が過ぎました。被災地においては、徐々に復興への兆しが見え始めておりますが、被災された方々の心の復興は、まだまだ長い道のりが必要ではないでしょうか。

この大震災は、本県においても多大なる被害を及ぼしました。県内の被災状況を知り、当会は、昨年四月十一日に栃木県神社庁神殿に於いて、一日も早い復興への祈りを込めた「東日本大震災復興祈願祭」を斎行致しました。また、震災の影響により、世の中が鎮魂と様々な自粛を行う中、改めて日本人の総氏神様と敬う神宮を参拝し、被災地の方々へ少しでも元気を届けたいという願いで、翌五月には「神主が自転車で行く伊勢参り」復興への祈りを神宮に」と題し、会員が自らの足で自転車をこぎ神宮まで走り、被災地の復興を祈りました。更に七月には、福島県いわき市久ノ浜の諏訪神社氏子区域の瓦礫撤去に従事し、被災地の惨状を自分の目で確認し、改めて甚大な被害であったことを痛感しました。年が変わり、東日本大震災発生から、ほぼ一年後の三月九日には、栃木県護国神社において、この度の震災を忘れることの無いように心に刻み、震災でお亡くなりになられた方々への、鎮魂と祈りをこめた東日本大震災復興祈願祭・慰霊の集いを斎行致しました。

私達が常日頃、神明奉仕に掲げる祈りの心・祈りの姿を、このような様々な形で被災地へ届けることで、震災で被災された方々に、様々な復興支援の気持ちを伝えて行くことは、私達青年神職の務めのひとつだと思います。

さて、本年は当会創立五十周年の佳節を迎え、五十周年実行委員

会をはじめ会員一丸となりまして、昨年より各種記念事業を進めております。

この佳節に、会長という重責のある役職に選任されたことは大変名誉なことであり、改めて身が引き締まる思いでいっぱいです。振り返れば当会は、日本が高度経済成長期といわれる昭和三十七年に産声をあげ、当時の諸先輩方の熱き情熱と志が形となり、当会が発足してから五十年が経ちました。その間、大変なご苦労をなされながらも斯界の為、日本の為と、日々粉骨砕身してきた先輩方の心に接し、多くの苦労を経ながらも連綿と受け継がれて今日に至ります。

今こうして当会が、五十周年という節目の年を迎えることが出来たこと、あらためて歴史の重みと先輩諸兄に感謝の念を抱かずにはいられません。ここに、あらためて御礼を申し上げます。

昨今の時代の流れに、社会情勢は刻々と変化し、神道教化の手法や手段は大きな変化を求められております。教育現場では、青少年の心の荒廃が騒がれ、道徳教育が崩壊し、家庭では家族としての機能を果たさず、目に見えない侵掠が着々と進んでおります。このような危機を打破するべく、我々青年神職が今一度、先輩方が築いてきた伝統・歴史・精神をしっかりと継承して、「自己研鑽」に務め、一人一人が強い意識と絆を共有することが大切であると感じます。諸先輩方におかれましては、今後とも変わらぬ御支援御鞭撻を宜しくお願い致します。

結びにあたり、当会創立五十周年に際しまして、御協賛下さいました関係各位・先輩諸兄の皆様方の温かい御支援に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

◆ 東日本大震災復興支援 ◆

いわき市久ノ浜 瓦礫撤去作業

◆ 神青協一都七県協議会による支援活動



去る六月二十七日に、神青協一都七県協議会が主体で行いました、被災地支援活動「いわき市諏訪神社氏子地域瓦礫撤去作業」に参加させていただきました。当日は早朝より現地へ入り、家屋から砂を掻き出し、瓦礫を運び出し、ゴミの分別を行うなどの作業を、夕方まで行いました。

私自身、福島県出身ということもあり、東日本大震災における福島県の被災状況については、より身近なもの

と理解しているつもりでした。

しかしながら、実際現場に足を運んでみると、目の前にはニュースや新聞等での情報よりも、はるかに悲惨な光景が広がっていました。震災時の津波により、沿岸部の家屋の大半は全壊、今回の作業現場は、福島第一原発から三〇・

八キロという距離に位置しており、放射能の影響で地元住民は避難を余儀なくされ、県内他地域に比べ支援の手が届きづらくなっていました。

また、このような状況下のため、地域の人々は故郷から離れざるを得なくなり、長年この地に住み、ここを離れがたく踏み止まる方もいますが、その多くは高齢の方々でした。この現状を鑑み、今後我々若い世代が積極的に現地に足を運び、自分にも出来る活動を継続して行くべきと、思いました。



個人での活動は限られてしまいましたが、多くの人達が被災地へ集まることよって、支援の輪は広がると思えます。この度の活動が、被災地の早期復興や現地の方々へ元氣や活氣を取り戻していただくきっかけになれば、幸いです。

(日光二荒山神社

山本明翔)

むすび会による支援活動



去る七月十一日、田中会長を始めむすび会会員十九名は、福島県いわき市に鎮座する諏訪神社の氏子区域での民家瓦礫撤去作業を行いました。早朝六時神社庁を出発し、午前九時福島県いわき市に入りました。

被災地の状況は連日のように、新聞やニュース等で報道され十分に把握していたつもりでしたが、海岸が近づくにつれ人氣が少なくなり、突然、目の前に瓦礫の山が飛び込んできました。その現状は想像を絶するものがあり、津波の恐ろしさを肌で感じ、あまりの衝撃で身震いしたことを忘れることができせん。

諏訪神社へ到着した我々会員は、本日の作業の安全を御前に祈願し、いわき市支部長様を始め諏訪神社高木宮司様より震災当時の悲惨な様子を伺いました。「海岸に隣接する氏子区域は、ほぼ壊滅状態であり、人の住める状況ではありません。しかし、幸いにも諏訪神社は、海岸から凡そ百メートル離れた場所に鎮座し、津波の被害は無く、社殿の損壊も少なく済みました。私一人の力では出来ることは限られています。が、氏子の皆様と力を合わせて、復興に向けて日々努力していきたいと思えます。」との、心強いお言葉を戴きました。

会員一同、その言葉を胸に高木禰宜様より撤去作業の説明を受け、民家へと移動しました。現場は、福島第一原子力発電所から半径三〇・八キロ圏内に位置し、放射能の影響により他の被災地に比べ、ボランティア活動をやる人が少なく、辺り一面瓦礫が散乱しておりました。又、この日は、東日本大震災発生より四ヶ月の節目の日でもあり、地震発生時刻の午後二時四十六分、海岸へ移動し、お亡くなりになられた方々へ、黙禱献花を捧げ御冥福を祈りました。夕方には、大神様の御加護により、会員皆怪我もなく全ての作業を無事に終了する事が出来ました。

私は、この度の支援活動の際に、深く感銘を受けたことがあります。それは、高木禰宜様を始め、被災された地域の方々の手によって、既に解体予定の民家に色とりどりの花を描き、瓦礫で埋め尽くされた自分たちの町を少しでも明るくし、そして震災で落ち込む気持ちを徐々に邁進出来るようにと、前向きに取り組む姿勢に強く心を打たれました。

このような支援活動を通して、当会の目的である神社神道の興隆に基づき、自己研鑽と会員相互の親睦を図り、次世代を担う青年神職として、活動の幅を広げていきたいと思えます。また、被災地の早期復興と一日も早く元の生活に戻るよう祈念するとともに、震災で犠牲となりました方々へ、改めて衷心より哀悼の意を表します。

当日参加されました会員の皆様、大変お疲れ様でした。

(今宮神社 福田財大)



東日本大震災復興祈願祭・慰霊の集い

日時 平成二十四年三月九日
午後四時より

場所 栃木県護国神社御社殿

祭主 栃木県護国神社 宮司 稲舟

祭員 日光二荒山神社

権禰宜 福田有宏

雄琴神社 禰宜 畠川裕正

乃木神社 権禰宜 津田宏

白鷺神社 権禰宜 大塚聡

瀧尾神社 権禰宜 増渕直紀

式次第

一、修祓

一、斎主一拝

一、献饌

一、斎主祭詞奏上

一、祭文奏上

一、栃木県青年神職むすび会
会長 田中教文

一、玉串拝礼

一、斎主

一、栃木県神社庁長 石原敬士
(代理 主事 湯澤義之)

一、会長

一、田中教文

一、副会長

一、滝口貴史・沼部博成

一、撤饌

一、斎主一拝

以上



昨年の未曾有の大震災により、早くも一年という月日が流れました。多くの人々の尊い生命が亡くなられた事に、改めて心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、被災地の日も早い復興を、強く念じずにはおれません。
平成二十四年三月九日、栃木県護国神社において、東日本大震災復興祈願祭・慰霊の集いを御奉仕させて頂いたいただきました。自分に

とって、当会活動での初めての御奉仕でしたので、とても緊張しました。

今回共に御奉仕させていただいた諸先輩方は、様々な諸活動においての祭典奉仕や、御自分のお宮での社務奉仕の経験がありますが、祈願祭においては、各自様々に心の内に思うことがあり、控室内は凜とした空気に包まれておりました。

この度、祭員を務めるにあたり、祭典の知識や心構えを、他の神職の方に聞いてみたり、祭式の自主練習をしたりと、御奉仕の際、不備がないように勉強して参りました。しかし、まだまだ知識も経験も未熟な自分出来ることは、祈る気持ちと大切にするということだと思ひ、この御奉仕を通して祈るといふ気持ちの尊さを、実感しました。

祭典を御奉仕させていただき、大震災直後、毎日のように報道されていた、津波や地震被害の映像を思い出し、自然の測りしれない大きな力や、人の力の無力さ、それでも日々前へ進もうとする姿など、本当に様々な事を再び考えさせられました。この度の祈願祭での祈りが、被災地の皆様へ届くことを願うばかりです。

最後に、諸先輩方にご指導をいただき無事にご奉仕できました事を、厚く御礼申し上げます。

(瀧尾神社 増渕直紀)



創立五十周年記念事業

神主が自転車で行く伊勢参り



当会では創立五十周年を迎えるにあたり、神主が自転車で行く伊勢参りくがんばろう日本！復興への祈りを神宮に」と題した記念事業を、五月十六日～二十日にかけて行いました。

この記念事業は、当初会員が自転車で行く伊勢の神宮を目指すことで、氏子崇敬者の方々に、広く神宮や式年遷宮について啓発し、参宮促進を図ることを目的としていました。しかし、準備を進めていたさなか、東日本大震災が発生しました。事業の中止や延期も検討しましたが、被災地の復興を祈念しながら伊勢を目指すことで、被災地への関心を高め、被災された方々の励みにもなればとの会員全員の強い思いから、実施に踏み切りました。

十六日早朝、上三川町に鎮座する白鷺神社において、道中の安全を祈願した後、多くの会員に見送られ、一路神宮に向け出発しました。神宮に向かう間、「がんばろう日本」・「復興への想いを神宮に」などと書かれた揃いのTシャツを着用し、また伴走するワゴン車にも同様の標

語を明記するなど、神宮の啓発と被災地復興に向けた意識昂揚に努めました。

途中、静岡・三嶋大社など、沿道近くの神社に参拝し御神徳を戴くとともに、各地で一部七県の神道青年会会員・神社関係者の方々から激励を戴き、栃木県から神宮までの約六百キロを五日間かけて走り抜き、予定通り二十日午前、神宮に到着しました。

二十日の到着時には、宇治橋前に会長始め当会会員が集合され、自転車走者三名・自動車伴奏者一名を拍手で出迎えました。その後全員で、内・外両宮に参拝し、被災地の一日も早い復興を祈念致しました。

この度の記念事業は、被災地並びに被災者を、少しでも勇気付けられればとの思いから実施しましたが、道中沿道の人々からの温かい声援に、我々も沢山の元気を戴きました。



また、改めて日本人の持つ温かな心を感じることができ、この事業を通して出会った全ての方々に、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(白鷺神社

上野敬則)

夏休み子供神社体験

平成二十三年八月八日、九日の二日間にわたり、鹿沼市に鎮座致します古峯神社に於いて、「栃木県青年神職むすび会創立五十周年記念事業「子供神社体験プログラム」を開催しました。

本プログラムは、次世代を担う子供達に、自分達の体と心を持つて神社を体感してもらい、それによって、神社をより身近に感じてもらう事を目的としております。

今回参加した子供達は、本会の会員子弟がほとんどで、日常生活の中では見ることのない、神職としての父親の姿をしつかりと見ることが出来たのではないのでしょうか。

一泊二日のプログラムには、ほとんどの子供達が初めて目にし、実際に触れて、音を出した雅楽の時間や、神話を題材とした紙芝居の上映、毎日の食事に感謝する食前・食後感謝を学びました。参加者の親睦を深めるために行われたレクリエーションでは、スイカ割りや目一杯スイカを叩き過ぎ、最後には棒が折れてしまうという珍事が発生し、参加者の笑いを誘いました。夜のバーベキューは、



生憎の雨の為に中止となりましたが、屋根の下で行った花火は、火の取扱方が難しい年少の子供達を、年長の子供達が自然と面倒を見ながら、皆思い思いに楽しい時間を過ごしました。

就寝時間になると、普段は子供達を先に寝かしつけるお父さん方も、この日は大分疲れたと見えて子供達と一緒に寝てしまう方がほとんどでした。大部屋にそれぞれの子供が揃って寝ている姿は、なんとも言えない心温まる風景でした。次の日は、起床後すぐに全員で禊を行いました。早朝より心身を清めるこの行法は、子供達にとって眠気も吹き飛ばす程、衝撃的だったことと思います。

行われた全てのプログラムが、参加した子供達、又父親として、神職として携わった会員にとって、貴重な体験になったことと思います。

今回このプログラムに参加した子供達が、今後古峯神社を訪れた際、プログラムの一環として植樹した記念の木を見ながら、その時の色々な思い出や出来事を思い出して戴ければ幸いです。

また、このような企画は次世代を担う子供達のためにも、継続していければと思います。

(日吉神社 大柿文彦)

雅楽コンサート



当会創立五十周年記念事業として、平成二十三年十一月二十九日栃木県文化センターにて「雅楽×Gagakuコンサート」を開催いたしました。

今回の雅楽コンサートは、五十周年事業の『次世代への継承』という主題に合わせ、日本文化の伝統継承を目的として、開催するに至りました。演奏して頂きました東京の雅楽団体『雅楽道友会』様は、民間への雅楽の普及を目標に掲げ、栃

木県内の神社にも御指導をなさっております。

当日は、第一部第二部あわせ、八百名の方に御参集いただき、雅な世界の雅楽演奏に酔いしれました。リハーサル時には、八幡台幼稚園の園児百二十名に鑑賞していただきました。

なお、今回は雅楽のことを皆様にご存知いただくために、

演奏の前に雅楽の解説を取り入れました。解説の後、管絃平調越殿楽、陪臚、朗詠嘉辰、舞楽左舞胡飲酒、右舞納曾利を演奏舞していただきました。演奏会には、東日本大震災で被災され、栃木県那須烏山市にて仮設住宅で暮らす被災者の方々に御招待させていただきました。

また、我々むすび会と神道青年全国協議会が被災地支援活動を行なっております。福島県いわき市久ノ浜鎮座諏訪神社高木禰宜様と連携し、『久ノ浜にストロープを送ろう』と題し、会場内に募金箱を設けさせていただきました。皆様からいただいた義援金は、十二月八日現地に赴き、ストロープ購入費用等に使用していただくよう、高木禰宜様へ渡してまいりました。伝統文化の継承は、神社界の大きな使命でありたいと存じます。今後も雅楽等伝統文化の普及継承に、努めてまいりたいと存じます。

最後に、本公演開催にあたり、様々な形で御尽力御協賛賜りました先輩諸兄を始め皆様様に、衷心より厚く御礼申し上げます。

(八坂神社 滝口貴史)



御田植祭・抜穂祭

◆御田植祭

当会では会員実家の水田に神田を設け、毎年御田植祭を斎行しております。本年は東日本大震災の影響による水田の被害も懸念されましたが、幸い神田には被害がなく、例年通り斎行出来ることとなりました。

当日は、神田前に祭場を舗設し、祭典には会長を始め多数の会員が参列し、厳粛に神事が執り行われました。今回斎主を務めた滝口副会長が、未曾有の国難と呼ばれる震災からの一日も早い復興と、このような状況下でも健やかに稲が生長するように祈りを込め、玉串拝礼を行いました。

祭典後には、会員の手で「イセヒカリ」の苗が一株づつ丁寧に植えられ、神田には古来より続く早月の季節の風景が広がっております。



震災に負けず、稲の一つ一つが健やかに成長し、無事に稔りの秋が迎えられるようお祈りいたします。

◆抜穂祭

那須烏山市の神田において、十月三日抜穂祭を斎行しました。

本年は、去る三月に発生した東日本大震災により、原発事故による放射能汚染の影響のため、県内農作物の出荷停止が相次ぎました。抜穂祭斎行前にもその影響が懸念されましたが、県内各地で米を含めた農作物のモニタリング検査が実施され、いずれも基準値を下回っていることが確認されたため、予定通り祭典を行うこととなりました。

今回の抜穂祭には、会員の子供たちも参列して玉串奉奠を行いました。子供たちは慣れない作法に少し戸惑いながらも、秋の稔りに感謝の祈りを捧げました。

祭典後には、会員と子供たちがたわわに稔ったイセヒカリの稲穂を、一株ずつ丁寧に収穫しました。子供たちは、自分



達の手で刈り取った稲穂が伊勢の神宮にも奉納されることを聞き、驚きの声をあげながらも、満足げな笑みを浮かべておりました。

(一乃木神社)

秋元亮平

フットサル大会

平成二十三年十月二十四日、東京都神宮外苑フットサルコートにて、一都七県協議会親睦フットサル大会が開催されました。本大会は、今回が初の試みではありましたが、大会当日は快晴の空のもと、全六チームが参加しました。

当会からは、田中会長を始め会員九名が参加。今大会のために新調した、お揃いのユニホームに身を包み、コートへ入りました。試合内容は、田中会長・滝口副会長の当会自慢の二枚看板が華麗な足技、またハッスルプレーで得点を量産し、若手会員も負けじとソフトラッチでボールを撫でたりと、チーム一丸となつて戦いました。その結果、五戦全勝、失点も僅か一点という好成績で、優勝という輝かしい成績を修めることができました。

普段、他県の神職の方々と接する機会が少ない中、こうしたスポーツを通して和気あいあい楽しく非常に有意義な時間を過ごせた事を、大変有難く感じました。

今後とも、講習会・

親睦会等、様々な集い・活動を通して、当会並びに他県の方々と親睦を深め、より深い繋がりを「絆」が出来ればと思っております。



(春日神社 板垣喜充)



平成二十三年度 栃木県青年神職むすび会事業報告

(平成二十三年)

四月 六日	神社庁企画運営会議	栃木県神社庁
四月 八日	むすび会決算監査会	栃木県神社庁
四月 十一日	第一回むすび会役員幹事正副委員長会議 東日本大震災復興祈願祭	栃木県神社庁
四月 十三日	第一回一都七県協議会定例会議	神社本庁
四月 二十七日	第六十三回神青協定例総会	神社本庁
四月 二十八日	県内神社例祭(会員奉仕)	栃木県護国神社
五月 十日	平成二十三年度むすび会定例総会	栃木県神社庁
五月 十六日	創立五十周年事業 神主が自転車で行く伊勢参り	三重県伊勢市
六月 六日	第十六回一都七県協議会定例総会	山梨県富士吉田市
六月 十六日	那須御用邸勤労奉仕	那須御用邸
六月 二十七日	一都七県協議会いわき市久ノ浜復興支援 がれき撤去奉仕	福島県いわき市
七月 八日	第三回むすび会役員幹事正副委員長会議	栃木県神社庁
七月 十一日	むすび会いわき市久ノ浜復興支援 がれき撤去奉仕	福島県いわき市
七月 二十日	神青協いわき市久ノ浜復興支援 がれき撤去奉仕	福島県いわき市
八月 八日	創立五十周年事業 夏休み子供神社体験	古峯神社
八月 十八日	第三回一都七県協議会定例会議	東京都神社庁
八月 二十一日	神青協夏期セミナー	神社本庁
九月 六日	栃木県神社庁六十五周年記念大会助勢	宇都宮グランドホテル
九月 十五日	第四回むすび会役員幹事正副委員長会議	栃木県神社庁
九月 二十日	神青協岩手県内復興支援活動	岩手県内

九月 二十八日	一都七県協議会いわき市久ノ浜復興支援 がれき撤去奉仕	福島県いわき市
十月 三日	(教化委員会主催)皇居勤労奉仕	皇居
十月 六日	第十五回一都七県協議会神職野球大会	神宮外苑
十月 二十四日	フットサル交流会	東京都内
十一月 十七日	第五回むすび会役員監事正副委員長会議	栃木県神社庁
十一月 十九日	創立五十周年事業 雅楽コンサート	宇都宮市文化センター
十二月 二日	一都七県親睦ゴルフ	佐野市内
十二月 九日	第四回一都七県協議会定例会議	靖国神社参集殿
(平成二十四年)		
一月 二十四日	第六回むすび会役員監事正副委員長会議 新年会	栃木県神社庁 東日本ホテル
二月 九日	第五回一都七県協議会定例会議 顧問会・新年会	神社本庁
二月 十一日	建国記念の日記念式典	宇都宮二荒山会館
二月 二十一日	山梨県神道青年会創立六十周年記念大会	山梨県
三月 九日	東日本大震災復興祈願祭・慰霊の集い	栃木県護国神社
三月 十二日	一都七県協議会研修旅行	千葉県鴨川市
三月 十三日		
三月 二十二日	神青協中央研修会	福島県
三月 二十三日		
三月 二十七日	退会者慰労会・昇級者祝賀会	東日本ホテル

平成二十三年度 役員・幹事氏名

〔役員〕

会長	田中 教文	滝尾神社	宮司
副会長	沼部 博成	須賀神社	権禰宜
副会長	滝口 貴史	八坂神社	権禰宜
事務局長	柳田 耕史	大前神社	禰宜
庶務	大阿久岩 貴	春日神社	宮司
會計	金子 宗人	宇都宮二荒山神社	権禰宜
監事	小堀 真洋	八雲神社	宮司
監事	福田 財大	今宮神社	権禰宜
監事	和氣 洋誠	日光二荒山神社	権禰宜
議長	阿久津 喜大	三祖神社	禰宜

〔幹事〕

宇河 支部	上野 敬則	白鷺神社	禰宜
宇都宮二荒山神社	金子 宗人	宇都宮二荒山神社	権禰宜
芳賀 支部	野澤 功嗣	大前神社	権禰宜
塩谷 支部	高橋 林之介	今宮神社	権禰宜
南・北那須支部	津田 宏	乃木神社	権禰宜
上都賀支部	田邊 雅祥	岩崎神社	禰宜
日光二荒山神社	福田 有宏	日光二荒山神社	禰宜
古峯 神社	黒本 裕子	古峯神社	禰宜
下都賀支部	櫻木 琢也	諏訪神社	宮司
安佐・足利支部	寺内 誉迪	村檜神社	宮司

各種委員会氏名

〔創立五十周年 実行委員会〕

〔広報委員会〕	委員長 岩松 史恵	津島神社	禰宜
副委員長 根本 直樹	大前神社	権禰宜	
〔研修委員会〕	委員長 秋元 亮平	乃木神社	権禰宜
副委員長 多田 隆一	日光二荒山神社	権禰宜	
〔事業委員会〕	委員長 板垣 喜充	春日神社	禰宜
副委員長 黒川 裕正	雄琴神社	禰宜	
〔親睦委員会〕	委員長 大柿 文彦	日吉神社	禰宜
副委員長 新井 隆宏	磐根神社	禰宜	
〔遷宮・神社大麻特別委員会〕	委員長 葭田 真彦	八坂神社	禰宜
副委員長 下妻 大介	今宮神社	権禰宜	

委員長 滝口 貴史	式典担当 大阿久岩 貴
副委員長 大阿久岩 貴	式典担当 黒本 裕子
副委員長 櫻木 琢也	副担当 阿久津 喜大
総務局長 柳田 耕史	副担当 櫻木 琢也
會計 横瀬 勝宣	副担当 岩松 史恵
監事 葭田 真彦	副担当 根本 直樹
監事 新井 隆宏	副担当 秋元 亮平
総務局員 田邊 雅祥	副担当 多田 隆一
総務局員 上野 敬則	
総務局員 寺内 誉迪	

新入会員紹介



増渕 元
ますぶち はじめ

住所

日光市森友一三六二の七

生年月日

昭和58年6月22日

奉務先

瀧尾神社

趣味・特技

映画

座右の銘

無

好きな異性のタイプ

芸能人なら麻生久美子

これからの抱負など

神社は地域の象徴。地域の発展に貢献できるように神威の発揚に務めてまいります。



和田 晋典
わだ しんべい

住所

日光市小林三〇一六

生年月日

昭和61年3月31日

奉務先

小林瀧尾神社

趣味・特技

サッカー・セバタクロー・釣り・ギター

座右の銘

無

好きな異性のタイプ

好きになった方

これからの抱負など

本会を通して、若手先輩方と共に活動させていただくことで、皆様と交流を深めより多くの事を吸収し、神職として、人としての充実を図っていききたいと思っています。



増渕 直紀
ますぶち なおき

住所

日光市森友一三六二の七

生年月日

昭和62年4月1日

奉務先

瀧尾神社

趣味・特技

サイクリング・ランニング・シヨツピング

座右の銘

泣くも笑うも一生は一生

好きな異性のタイプ

清楚な感じ

これからの抱負など

頭を使うより体を使うタイプなので、体力面で頑張りたいと思います。皆様、御指導の程宜しくお願いします。

◆退会者紹介◆

福田 光弘

奉務先

高麗神社

生年月日

昭和46年4月2日

コメント

会員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。これから創立五十周年記念事業が大成することを祈念いたします。

小堀 照美

奉務先

八雲神社

生年月日

昭和46年9月14日



祝ご結婚

野澤 功嗣

奉務先

大前神社

挙式日

平成23年4月2日

式場

長沼八幡宮

新婦氏名

野澤 恵 (旧姓：佐々木)

本人のコメント

お互いを思いやる心を大切に、二人で力を合わせて生きて行きたいと思えます。

お相手より

毎日共に過ごせる事に感謝しています。

祝ご誕生

野澤 功嗣

第一子氏名

野澤 広嗣(ひろつぐ)

生年月日

平成23年8月3日

親からの希望

食物を育む自然の恵みに感謝し、沢山食べ、大きく健やかに育ってほしいと思います。

祝ご結婚

和氣 洋誠 (旧姓 佐藤)

奉務先

日光二荒山神社

挙式日

平成23年11月26日

式場

日光二荒山神社

新婦氏名

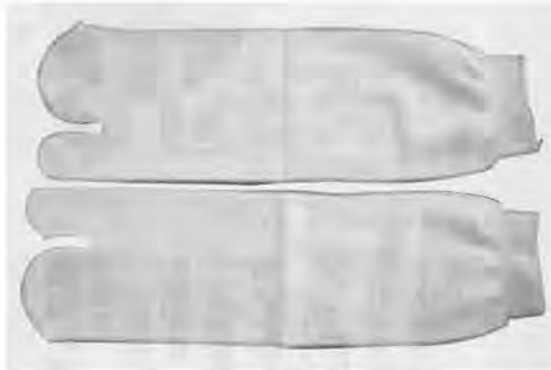
和氣 裕美

本人のコメント

感謝の気持ちを忘れずに、楽しく暖かい家庭を築いていきたいです。

お相手より

明るい家庭を築いていきたいと思えます。



足袋の中
はく靴下

タビックス

5足組

¥500 (送料別)

12足組

¥1,000 (送料別)

創業140年

各種御神符・守札
その他授与品全般

湊御神符奉製所



株式会社 湊

伊勢市神宮会館前(〒516-0025)
TEL (0596) 22-2442 (代表)
FAX (0596) 28-8445



麻・鈴緒・合織α縄(注連縄)製造

有限会社 モミヂヤ

〒328-0042 栃木市沼和田町12-14
フリーダイヤル 0120-22-1312
FAX 0282-22-1387
<http://www.t-cnet.or.jp/~momidiya/f-top>

各授与品、記念品奉製

金欄綿守、合成樹脂製守、紙札守
木札、金属製守、反射ステッカー

●その他各種授与品御希望に奉製致します。


株式会社 三愛工芸

〒311-4143 水戸市大塚町字谷津1761-16
TEL 水戸 (029)251-2051(代)
FAX 水戸 (029)253-5844

ようこそお伊勢さんへ

勢乃國屋では、豊富なおみやげ品、
伊勢の郷土料理を用意して、
皆様のお越しをお待ちしております。
どうぞお気軽にお立ち寄りください。

～ 伊勢路の土産と御食事処 ～



伊勢内宮前 勢乃國屋

〒516-0024 伊勢市平治今在家町117
TEL 0596-23-5555
FAX 0596-23-1928
URL <http://www.senokuniya.co.jp>
E-mail info@senokuniya.co.jp

県内各神社様、工事拜命先(順不同)

日光東照宮	矢板木幡神社
日光二荒山神社	小川温泉神社
宇都宮二荒山神社	足利權崎八幡宮
真岡大前神社	佐野一丸神社
大田原那須神社	下野一社八幡宮
西那須野乃木神社	祖母井神社
氏家今宮神社	足利八雲神社
足利星宮神社	一瓶塚福荷神社

株式会社 小西美術工芸社

〒321-1421 栃木県日光市所野2829-1
〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3階
TEL 日光(0288)54-1198(代) TEL 東京(03)5765-1481(代)

営業品目

縁起物入おみくじ・金属製守・木札守・紙札守
金欄綿守・各種熊手・守護矢・朱印帳

おまもりの奉製

株式会社 阿部

本社・工場 〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡213-7
TEL (0282) 62-1010 (代表)
FAX (0282) 62-2061



祈りをこめて

神社授与品・記念品御奉製

株式会社 長谷川製作所

代表取締役 長谷川 和夫

本社 〒114-0004 東京都北区豊島3-20-13 TEL 03-3912-6161(代表) FAX 03-3912-3131
草加営業所 〒340-0025 埼玉県草加市谷塚神町466-1
TEL 048-921-1221(代) FAX 048-921-1515



大当たりのお手伝い

株式会社 下野広告社

〒320-0051 宇都宮市上戸祭町555-4
TEL028-666-8123 FAX028-666-8133





内宮に一番近い宿・どなたでもご利用いただけます

早朝参拝のご案内をしております

第六十二回神宮式年遷宮
遠宮で結ぶ人の
輪心の輪

ゆとりとやすらぎの宿
神宮会館

(財)伊勢神宮崇敬会

— ご宿泊に関するお問い合わせは —

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152
TEL.0596-22-0001/FAX.0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>

御社頭授与品奉製

※御希望通りの御調製申し上げます。
御一報次第参上致します。

新日本工芸株式会社

〒311-4153
茨城県水戸市河和田町3891
電話 (029)251-0997(代)
FAX (029)252-8287

神祭具・御装束・雅楽器類
結婚式場調度

(株)高善装束店

代表取締役 桑 眞一

〒113-0021 東京都文京区本駒込3-2-9
TEL 03(5815) 8771
FAX 03(5815) 8772

全国各神社御用達

神符・守札・木札・ビニール守・錦守・集印帳
交通安全守・御守袋・守護矢・ステッカー
奉書紙・書道半紙・画仙紙・色紙・他

創業100年 真心で奉仕する

今村紙業株式会社

代表取締役 今村 力男

〒409-3601 山梨県西八代郡市川三郷町市川大門6237-11
TEL 055(272)0514(代)
FAX 055(272)8818

平成25年 祝 第62回 伊勢神宮式年遷宮



伊勢名物 **岩戸餅**
お伊勢参りのお食事とお土産は

宇治橋より30秒!!

伊勢内宮前

岩戸屋

〒516-0024
伊勢市宇治今在家町58番地
☎ (0596)23-3188(代)
FAX (0596)28-1322
<http://www.iwatoya.co.jp>
E-Mail:iwatoya@iwatoya.co.jp

授与品専門奉製所

常陸神宝(株)

商標登録 「夢みくじ」「一期一会御守」

〒310-0067 水戸市根本1丁目53-4
(水戸)029(227)0511(代)
FAX(水戸)029(227)0512

社寺建築請負い

株式 会社 **石川工務店**

代表取締役 石川 明

〒321-1406 栃木県日光市松原町1233番地
TEL 0288-53-0408



株式会社

民俗工芸

御注文専用フリーダイヤル

TEL 0120-534-550
FAX 0120-872-550

〒857-1162 長崎県佐世保市御本町18-1
土曜日も平常通り営業致しております
URL▶<http://www.minzoku.co.jp>
インターネットからの御注文も承っております





御社頭授与品
御参拝記念品
立派複製

〈営業品目〉 ●交通安全御守護
●開運招福鈴
●文鎮 金盃
●各種記念品類
●胸像・レリーフ・鑄造類

鈴木徽章工芸株式会社
〒113-0032 東京都文京区弥生2-12-1
TEL. 03-3814-1811 FAX. 03-3818-8332
E-mail: info@suzuki-kisho.co.jp
http://www.suzuki-kisho.co.jp

政府登録ホテル

栃木グランドホテル

○屋上ビアガーデン ○スナック プチモンド
○居酒屋 四季 ○レストラン カーディナル

〒328-0015
栃木市万町6-11
TEL. 0282-22-1236(大代表)
TEL. 0282-22-5200
http://www5.ocn.ne.jp/~tgh/



総合印刷
(株)井上総合印刷
代表取締役 井上光夫
本社 宇都宮市岩曾町1355
TEL (028)661-4723
FAX (028)662-7607

誠実と真心で奉仕する
御守・授与品・参拝記念奉製
御一報次第カタログ御送り致します。

グリーン産商株式会社
代表取締役 柚木 忠
〒547-0033 大阪市平野区平野西4丁目8番29号
TEL 大阪(06)6702-6009番(代)
FAX 大阪(06)6797-5896番



環境にやさしい
おまもりをめざして

京都奉製株式会社
京都のおまもり

(仙台営業所) 宮城県名取市増田字関下
電話(022)1381-1397
(フリーダイヤル) 0120-164124



神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本社 三重県伊勢市岩洲2丁目5番29号(私書箱第26号)
〒516-8611 電話番号 0596-24-5858 FAX 0596-24-5110
IP電話 050-3536-5273
URL http://www.kamijisya.co.jp
E-mail info@kamijisya.co.jp

神 苑 東京都渋谷区恵比寿1-26-14 SSRビル4階
(東日本営業所) 電話番号 03-3280-6720 FAX 03-3280-6721
〒150-0013 IP電話 050-3539-3432
E-mail shinen@kamijisya.co.jp



株式会社 皆中 kaichu
〒156-0015
東京都世田谷区桜上水1-8-7 HALS桜上水2F
TEL 03-3302-1899 / FAX 03-3302-1900
E-Mail:koushin@kaichutabi.com
http://kaichutabi.com



足袋・和装用品専門店
福生株式会社

〒590-0953
堺市堺区甲斐町東1丁2-30
フリーダイヤル 0120-29-0051
FAX 0120-29-0052
ホームページ http://www.tabiya.net



とちぎ歳の湯



柏倉温泉
太子館

〒328-0066 栃木県栃木市柏倉町967
TEL(0282)23-5035(代) FAX(0282)23-5082
http://www.taishikan.jp ☎ 0120-235035

高精細印刷
700線カラー印刷をお試し下さい

BEAMS ビームス700プレミアム
700 Premium

再現不可能な微細で高画質を再現印刷

ビームスとは…伴印刷が提唱する品質と環境保護を考えた次世代の印刷システムです。

伴印刷株式会社
宇都宮市栄町6-10
TEL.028-622-8901 FAX.028-622-4525
URL://WWW.bannet.com

編集後記

平成二十三年は、東日本大震災による津波や福島原発事故、近畿地方での台風被害など、日本全国が甚大な災害に見舞われました。今なお、避難生活を余儀なくされ、厳しい状況下で生活を送らざるを得ない皆様に、衷心よりお見舞い申し上げます。また、震災から早くも一年という月日が過ぎ去りましたが、被災地の一日も早い復興と、被災された方々の御心の平安を、改めて御祈念申し上げます。

さて、本年もここに「会報むすび第三十六号」が、皆様のお陰をもちまして無事発行出来ましたこと、厚くお礼申し上げます。偏に御協賛を賜りました皆様、御寄稿御協力戴きました各位へ、心より感謝申し上げます。

近年斯界を取り巻く環境は、決して安堵できるものではありませんが、我々青年神職は、自己研鑽を積み、会員相互の親睦を深め、これからの様々な事業に取り組んで行きたいと思っております。今後とも御指導御鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

広報委員会 氏名

- | | |
|------|--------|
| 委員長 | 岩松 史恵 |
| 副委員長 | 根本 直樹 |
| 委員 | 櫻木 琢也 |
| 委員 | 石原 奈央子 |
| 委員 | 小堀 照美 |
| 委員 | 黒川 寧子 |
| 委員 | 津田 宏 |
| 委員 | 寺内 誉迪 |
| 委員 | 黒本 裕子 |



「手持ち付き 御神酒箱」

一升瓶が入るサイズ

●箱サイズ：11×11×48cm

年度内価格

3箱

5箱

¥500
のところ

➔ ¥600

※配送の場合は、1箱150円で50箱単位

栃木県青年神職むすび会 頒布品

着帯のお祝い
(安産祈願)

腹帯

〈岩田帯〉

頒布価格(1箱)

¥1,000 (送料別)



くじら尺を用いて、縁起の良い7尺5寸3分(約3m)に裁断し高級感ある桐箱に納めました。
中の帯は縦に二つ折にし、巻き納めてあります。(解説書在中)

ご注文
問い合わせ

〒321-4411 栃木県栃木市大平町横堀330 春日神社内
栃木県青年神職むすび会 事業委員会
委員長 板垣 喜充宛 ※ご注文はFAXにて受付致します。
FAX / 0282-23-5456 電話 / 080-5645-4432

